

くすりのしおり（案）

内服剤

2026 年 08 月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名: シタグリプチン錠 50mg 「JG」

主成分: シタグリプチンリン酸塩(Sitagliptin Phosphate)

剤形: うすい黄赤色の長円形の錠剤、長径 11.5mm、短径 4.8mm、厚さ 3.3mm

シート記載など: シタグリプチン錠 50mg 「JG」、シタグリプチン、50、糖尿病用薬、1 日 1 回服用、Sitagliptin50、シタグリプチン 50mg 「JG」



この薬の作用と効果について

血糖を一定に保つ働きをするインクレチンを分解する酵素を阻害することにより、血糖が高い時にインスリン分泌促進作用並びにグルカゴン濃度低下作用を増強し血糖コントロールを改善します。

通常、2 型糖尿病の治療に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。ケトーシス、糖尿病性昏睡または前昏睡、1 型糖尿病、感染症、手術前後、外傷がある、腎機能障害、脳下垂体機能異常、副腎機能異常、栄養状態が悪い、飢餓状態、食事が不規則、十分な食事を摂取していない、衰弱している、激しい筋肉運動をしている、酒を大量に飲んでいる、腹部手術をしたことがある、イレウスになったことがある。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（: 医療担当者記入）
- ・腎機能が正常あるいは低下していても軽度な方（軽度腎機能障害）: 通常、成人は 1 回 1 錠（シタグリプチンとして 50mg）を 1 日 1 回服用しますが、効果が不十分の場合には、経過を十分に観察しながら 1 日 1 回 2 錠（100mg）まで増量されることがあります。
腎機能が低下している方（中等度腎機能障害）: 通常、成人は 1 回シタグリプチンとして 25mg を 1 日 1 回服用しますが、効果が不十分の場合には、経過を十分に観察しながら 1 日 1 回 1 錠（50mg）まで増量されることがあります。
- ・腎機能が低下している方（重度腎機能障害、末期腎不全）: 通常、成人は 1 回シタグリプチンとして 12.5mg を 1 日 1 回服用しますが、効果が不十分の場合には、経過を十分に観察しながら 1 回 25mg を 1 日 1 回まで増量されることがあります。
- ・本剤は 1 錠中にシタグリプチン 50mg を含有します。いずれの場合も、必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・飲み忘れた場合は気がついた時、1 回分を飲んでください。ただし、次に通常服用する時間が近い場合は飲まずに、次の服用時間から 1 回分を飲んでください。絶対に 2 回分を一度に飲んではいけません。
- ・誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・医師の指示なしに、飲むのを止めないでください。

生活上の注意

- ・指示された食事療法や運動療法をきちんと守ってください。
- ・この薬を使用中は、定期的に血糖の検査が行われます。この薬を 3 ヶ月使用しても十分に効果が得られない場合は、より適切な治療に変更される場合があります。
- ・腎機能障害がある場合、定期的に腎機能の検査が行われることがあります。
- ・急性膵炎があらわれることがあります。持続的な激しい腹痛、嘔吐などがあらわれた場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ・低血糖症状を起こすことがありますので、高所での作業や自動車の運転など危険を伴う機械の操作には注意してください。
- ・低血糖症状が起こった時には十分量の糖分（砂糖、ブドウ糖、清涼飲料水など）をとるようにしてください。α-グルコシダーゼ阻害剤（糖分の吸収を遅らせる薬）と同時に服用中の方は、低血糖症状が起こった時にはブドウ糖をとるようにしてください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、低血糖症、便秘などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・呼吸困難、蕁麻疹、目や口唇周囲の腫れ〔アナフィラキシー反応〕
- ・発熱、紅斑、眼の充血〔皮膚粘膜眼症候群、剥脱性皮膚炎〕
- ・寒気、空腹感、手足のふるえ〔低血糖〕
- ・激しい上腹部の痛み、腰背部の痛み、吐き気〔急性膵炎〕
- ・排便の停止、腹痛、腹部膨満感〔イレウス〕

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄方法がわからない場合は受け取った薬局や医療機関に相談してください。他の人に渡さないでください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。